

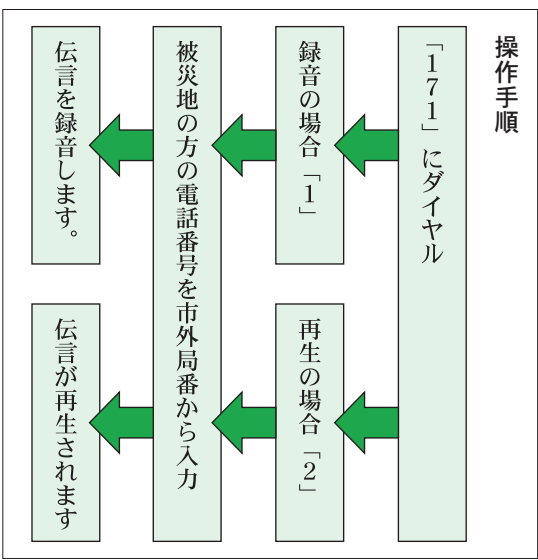
# こどもくらしのきのために「災害用伝言ダイヤル」

みなさんは、「災害用伝言サービス」をご存じですか？

地震など災害のときに、あなたやあなたの家族、友人の安否確認はどうしますか？「携帯があるから大丈夫」と思っているが災害が発生したときにあわてることになります。

災害の直後は被災地への電話が集中しつながらしくくなります。「早く安否を知りたい」そんな時は災害用伝言ダイヤル「171」を覚えておきましょう。

利用方法は、「171」をかけるとガイダンスが流れます。ガイダンスに沿って被災地の電話番号を入力すると30秒の録音ができ、その伝言は48時間保存されます。



※災害が起ったときのN.T.Tのサービスです。N.T.T以外の会社の固定電話に対してのメッセージの録音・再生はできません。

その「災害用伝言ダイヤル」を矢部小4年生が体験学習しました。この体験学習会は財団法人日本公衆電話会熊本支部が開催したもので、県内で2番目となります。

9月3日、矢部小学校のホールに特別回線が用意されました。災害時を想定して「〇〇（名前）です。今、矢部小体育館に避難しています。安心して下さい。」というメッセージを残し、それを再生する体験を行いました。災害時、携帯電話や固定電話はかかりにくくなりますが、グレーや緑色の公衆電話はかかりやすくなっています。



また、今年3月から「災害用伝言サービス」の携帯電話版である「災害用伝言板」のサービスが始まり、全携帯電話、PHS会社共通対応となっています。

この2つのサービスは、毎月1日と正月三日、8月末の防災週間などに体験利用することができます。ぜひ一度試してみてください。

## 町長室から

甲斐 利幸

猛暑、地球温暖化などの懸念も、緑豊かな山都町では実感することもなく、夏が過ぎ、徐々に錦織りなす秋となりました。

内大臣峡、緑仙峡、蘇陽峡は鮮やかな紅葉で盛装します。誇るべき山都町の表情です。

部落差別問題の解消は国民的課題であり、国、地方公共団体の責任でもあります。町としてもこの解決に精一杯努力しています。差別は、部落差別問題だけでなくありますが、あらゆる差別をなくすためには、部落差別問題を重要な課題と位置づけることが必要です。

緑豊かな山都町には、差別という非人間的な問題があつてはならないと考えています。

私の町政の基本的理念の一つとして「優しさ」を据えています。

尖閣諸島は、日本固有の領土ですが、中国の領海侵犯などの示威行動が頻繁に起こっています。竹島は韓国が領有権を主張し、北方四島はロシアが実質支配しています。資源に恵まれない

い日本ですから、なおさら排他的経済水域の管轄権の主張が強いものであつてほしいものです。

町民運動会は天候不良のためプログラム半ばで中止になりましたが、イスとりゲームに参加した子どもたちがゲーム終了後に、学校は違つても、早速仲良く、こやかに会話をしながら地域のテントに帰っていました。合併後6年目を迎える山都町ですが、こうした光景を見て、少しずつ同じ町であるという意識が広がっているようで安堵します。

少産化・少子化の時代を子育ての難しさを感じます。従前考えられなかった事件にも、時代背景を考えます。家庭では、子どもを王様にしがちです。王様はその地位を脅かされると、家庭内で暴力に走り、外では順応できないか、所謂切れてしまします。

少産化・少子化の時代であるが故に、今一度、家庭、地域、学校と三位一体となつての子育てをすべきです。

子どもは次代を担う大事な宝です。優しく逞しく成長して欲しいものです。



## 『YOU&YOU通信』

Vol.41

### ○9月の交流会

よく晴れた9月の日曜日、40歳代を対象とした、前半期最後の交流会を行いました。今回は、阿蘇方面でパークゴルフを楽しみました。まだまだ残暑が厳しい中、男性陣の優しいアドバイスを受けながら、パークゴルフ初体験の女性参加者もとても和んだ雰囲気。終始笑い声が絶えないひとときを過ごしました。

その後、懇親会会場へ移動。短時間の懇親会、さらに40歳代を対象とする交流会は今年度最後ということもあり、男女ともに積極的に会話を交わしていました。（お酒の力も少し借りながら……）懇親会後の女性参加者の表情には、まだまだ一緒にいたいという気持ちが見えるなど、よい交流会となりました。

### 結婚相談員です！



後藤 春樹さん  
TEL 72-0118

昨年引き続き、相談員をさせていただきました。後藤春樹です。

私は、商工会青年部の代表として相談員をしています。本年度はその青年部からも一組カップルが誕生し、とてもうれしく思っています。今は婚活ブームでもありチャンスだと思っておりますので、ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

## 自然のなかで豊かに育つ子どもたち

矢部郷自然観察会

代表 藤吉勇治



矢部郷自然観察会の特徴として、もう一つ例を挙げるならば、観察方法がある。一般的に自然観察法は、目で見て観察することが原則とされている。私たちの観察方法は、体の五感すべてを使って観察すること。目で見ると他に、生きものたちの声や音を聞いたたり、匂いをかいだり、手で触ったり、あるときは味覚で確かめることもある。

秋にはキノコの観察会を実施しているが、以前は昼食時にキノコ鍋をしていた。もちろん食用となるキノコを確認してのことである。ヒラタケというキノコによく似ていて誤食されるキノコにツクヨタケがあるが、観察会に来る子どもたちは、しっかりとキノコの見分け方も覚えるのだ。新緑の季節には、食べられる野草を天ぷらにして味を楽しむこともあった。

また、観察会では、子どもたちがチョウやトンボなどの昆虫を網で捕獲して観察することもある。時には観察している途中で虫を死なせてしまうこともある。そのような場面では、生きものへの死と向き合わせることで生命を認識させる大切なお勉強の機会として、平成7年9月発行の「森のたより」55号で「私はある学者の言葉を引用しながら次のように書いています。『子どもは、この時期に最も活発に学習能力を発揮し、体のあらゆる部分の感覚を通して自分のまわりにあるものを知らうとし、その行為が子どもの創造性を豊かに育む。……遊びを通して自然と交流することによって、知ること、感じること、深く刻みつけられる。』



(平成8年 ジュニア・レンジャー自然観察会「桃源郷(鶉の子滝周辺)探検」での様子)

「自然と人間の切り離した空間から発達した社会では、人間のおおの段階でつなぐが、幼熟した自己中心の結果として自然破壊は促進されてきた。これらの言葉は、私たちに多くの示唆を与えてくれる。」



パークゴルフのようす

### ●お問い合わせ先

山都町役場 浜町事務所 総務課 (成瀬・吉田)

【専用電話】

090-956519589

【専用アドレスPC】

marriage.support@ow.rkumamoto-yamato.jp

【専用アドレス携帯】

you\_and\_you@docomone.jp